

授業科目	看護学概論	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・ 教育・看護管理	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護を志す初学者として、看護とは何かを学び、看護の対象の理解を深めるとともに、看護職者が実践する看護とは、どのような活動なのか、その機能と役割について学ぶ						
授業計画	授業内容			授業内容			
1.	講義	看護とは					
2・3.	講義・グループワーク・発表	看護のイメージ、理想の看護師像					
4.	講義	看護の歴史と変遷（～中世まで）					
5.	講義・DVD視聴	看護の歴史と変遷（中世以降）					
6.	講義・DVD視聴	看護理論 ナイチンゲール、ヘンダーソン他					
7・8.	グループワーク・発表	ヘンダーソン 看護の基本となるもの（14のニード）について					
9.	講義	看護の対象の理解					
		1) 人間のこころとからだ					
		2) 生活者としての人間					
10.	講義	健康のとらえ方					
		1) 健康とはなにか					
		2) 健康な状態、健康でない状態					
11・12.	講義 グループワーク・発表	国民の健康状態と生活					
		1) 国民の健康の全体像について					
		2) 人々の生活と健康に関する統計データ					
13・14.	講義	看護の提供の仕組み					
		1) サービスとしての看護と看護サービス提供の場					
		2) 医療安全と医療の質保証					
		3) 広がる看護の活動領域					
		4) 看護の倫理					
15.	まとめ、筆記試験（1時間含む）						
教科書	系統別看護学講座 専門分野 看護学概論（医学書院） 看護覚え書 -看護であること看護でないこと-（現代社） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版社）						
参考書	国民衛生の動向（厚生統計出版会） 系統別看護学講座 専門分野 成人看護概論・老年看護概論（医学書院） DVD：看護理論シリーズ、他						
評価方法	筆記試験（70%）、演習参加度（10%）、課題レポート・演習成果（20%）で総合評価						
備考							

授業科目	看護技術論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護技術を学ぶ必要性について理解し、看護をするうえで欠かせない人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を修得する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義	技術とは 看護技術の特徴 看護技術の範囲					
2.	講義	看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得のために					
3.	講義	コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 看護・医療におけるコミュニケーション					
4.	講義・グループワーク	コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) コミュニケーション手段 2) 構成要素と成立過程 3) ミスコミュニケーション 4) 看護職としてのコミュニケーション能力向上 5) プロセスレコード					
5.	講義・グループワーク	関係構築のためのコミュニケーション 1) 接近的コミュニケーション 2) 接近的行動と非接近的行動					
6.	講義・グループワーク	効果的なコミュニケーションの実際 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブネス					
7.	講義	コミュニケーション障害のある人への対応					
8.	筆記試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院)						
参考書	看護コミュニケーション基礎看護から学ぶスキルとトレーニング第2版 (医学書院)						
評価方法	筆記試験 (90%)、授業態度 (10%) で総合評価						
備考							

授業科目	看護診断と看護過程	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	2
科目目標	対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その健康問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1. 2. 3.	講義 講義	看護の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション 4) 問題志向型システム 5) 臨床判断 看護モデルとアセスメントの枠組み ゴードンの11の機能的健康パターン他					
4.	講義・DVD視聴	情報とは、情報収集・看護過程演習の事例提示（脳梗塞）					
5.	グループワーク	事例の情報のクラスタリング					
6.	講義・グループワーク	アセスメントとは、事例のアセスメント					
7.	講義	看護診断：1) 看護診断の種類（問題焦点型、リスク型、ヘルスプロモーション型、シンドローム型） 2) 共同問題					
8.	グループワーク	事例の看護診断、問題の明確化（関連図）、事例の関連図作成					
9. 10.	講義・グループワーク	看護計画： 1) 目標・成果・成果指標 2) 介入計画（O-P、C-P、E-P）					
11. 12.	講義・グループワーク	事例の看護計画の立案					
13.	講義・演習	実施・評価：1) SOAP形式 2) 看護計画の評価 看護計画の実施・評価（SOAP記録）					
14.	講義	医療における記録					
15.	試験	まとめ、筆記試験（1時間含む）					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護がみえる vol.4 看護過程（メディックメディア）						
参考書	系統看護学講座 専門分野 脳・神経（医学書院） 看護診断ハンドブック（医学書院） NANDA-I 看護診断 定義と分類（医学書院） 疾患別看護過程（医学書院） 症状別看護過程（医学書院） 臨床検査データブック（医学書院）						
評価方法	筆記試験（70%）、演習参加度（10%）、課題・演習成果（20%）で総合評価						
備考	紙上事例を用いて看護過程と看護診断を学習します。						

授業科目	看護研究	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	2
科目目標	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論についての理解を深め、物事について深く考えたり、調べたりすることの必要性を理解することで探求心を養い、研究的態度を身に付ける						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義	看護研究とは、看護研究のはじめ（リサーチクエスションの立て方）					
2.	講義・個人ワーク	情報の探求と吟味 ー文献レビューとその方法ー					
3.	講義	研究における倫理的配慮、研究デザイン					
4.	講義・個人ワーク	データの収集、データの分析					
5.	講義・個人ワーク	研究計画書の作成、研究の伝え方（学会発表・論文作成など）					
6.	講義・個人ワーク	ケースレポート・事例研究の進め方					
7.	講義・個人ワーク	調査研究の進め方、文献研究・実践報告の進め方					
8.	試験	試験					
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）						
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）						
評価方法	筆記試験（50%）、研究論文（50%）						
備考	授業は情報科学室で行います。各自でUSBを準備してください。						

授業科目	清潔・衣生活の援助技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	1. 清潔・衣生活の意義や目的、援助におけるアセスメントの視点を理解する 2. 清潔・衣生活の援助に必要な基本的知識を理解する 3. 清潔・衣生活に関する基本的な援助の方法を習得する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義	清潔の援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能、 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点					
2.	講義	衣生活の援助の基礎知識 1) 衣服を用いることの意義、 2) 熱産生と熱放散、衣服気候 3) 衣生活に関するニーズのアセスメント 4) 衣生活の援助の実際					
3. ~	講義・演習	全身清拭・寝衣交換					
5.	講義・演習	1) 援助の基礎知識 2) 臥床患者の全身清拭・寝衣交換の実際 手浴・足浴					
6. 7.	講義・演習	1) 援助の基礎知識 2) 手浴・足浴の実際 洗髪					
8 ~	講義・演習	1) 援助の基礎知識 2) 洗髪器を使用した洗髪の実際					
10.	講義・DVD 視聴	入浴、シャワー浴 1) 援助の基礎知識					
11.	講義・演習	口腔ケア・整容					
12.	技術チェック	1) 口腔内の構造と機能 2) 口腔ケア、整容の方法					
13. 14.	まとめ・試験	臥床患者の全身清拭・寝衣交換					
15.		まとめ、筆記試験					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術II (医学書院)						
参考書	看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア) 看護技術 講義・演習ノート 第2版 上巻 (サイオ出版) 基礎・臨床看護技術 第2版 (医学書院)						
評価方法	筆記試験 (70%)、演習参加度 (10%)、課題レポート (20%) で総合評価						
備考	授業以外の空き時間を活用して、グループ・個人で話し合いや演習を行い、技術を習得できるよう、主体的かつ計画的に進めていきましょう。						

授業科目	フィジカルアセスメント			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	患者を正確に診るために必要な身体査定法について、科学的根拠に基づいて習得する						
授業計画・授業内容							
1.	講義	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント					
2. 3.	講義	正しいバイタルサイン測定の方法と留意点 (体温、呼吸、血圧、脈拍)					
4.	講義・演習	血圧測定の演習					
5. 6.	演習	バイタルサイン測定の実際 (体温・呼吸・脈拍・SpO ₂ ・血圧)					
7.	演習	技術チェック：バイタルサイン測定					
8.	講義	呼吸器系のフィジカルアセスメント					
9.	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際					
10.	講義	循環器系のフィジカルアセスメント					
11.	演習	循環器系のフィジカルアセスメントの実際					
12.	講義	乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント					
13.	演習	腹部のフィジカルアセスメントの実際					
14.	講義	神経系のフィジカルアセスメント 頭頸部と感覚器 (眼・鼻・口) のフィジカルアセスメント					
15.	講義	筋・骨格系のフィジカルアセスメント 心理・社会状態のアセスメント					
16.	試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院)						
参考書	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 (医学書院)						
評価方法	筆記試験 (70%)、演習参加度 (10%)、課題レポート (20%) で総合評価						
備考							

授業科目	与薬に伴う援助技術		単位数	1	時間数	30	
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1
科目目標	1. 薬物療法の意義・目的が理解する 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義	与薬に関する基礎知識 1) 剤形と投与経路 2) 法律と管理 3) 看護師の責任と役割					
2. 3.	講義	与薬の適応と原則 1) 誤薬・誤認防止 2) 経口・口腔内与薬 3) 吸入 4) 点眼 5) 点鼻 6) 塗布 7) 直腸内与薬法					
4.	講義	注射の適応と原則 1) 注射の種類と特徴 2) 物品の取り扱い 3) 安全対策					
5. 6.	演習	演習：注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ					
7.	講義	注射法の実際 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射					
8. 9.	演習	演習：筋肉内注射の実際					
10.	講義	注射法の実際 1) 静脈内注射 2) 点滴静脈内注射の管理					
11. 12.	演習	演習：点滴静脈内注射の実際					
13.	講義	注射法の実際 1) 中心静脈カテーテル 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ					
14.	演習	演習：輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い					
15.	講義 (1時間)	輸血の管理					
16.	試験 (1時間)	筆記試験					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 基礎看護技術II (医学書院)						
参考書	看護がみえる vol.1 基礎看護技術・vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
評価方法	筆記試験 (80%)、演習の取り組み・成果 (20%) で総合的に評価						
備考	解剖生理学、看護の中の物理、薬理学の知識が必要になりますので、予習復習をして講義に臨んでください。注射針を使用しますので事故を起こさないように十分留意して臨んでください。注射針の使用は安全のために教員のもとで行いますので、自主的に学生のみで時間外に演習を行うことはできません。						

授業科目	看護研究演習	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	3	開講学期	1
科目目標	3年次前期の病棟実習において受け持った事例について看護実践をケーススタディとして卒業論文としてまとめ、看護を追究していく姿勢を養い、自己の看護観を高める						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義 (45分)	看護研究演習オリエンテーション					
2.	講義	研究計画書について 研究計画書作成					
3.	講義	論文・抄録作成について					
4.	講義	論文作成					
5.	講義	研究発表に向けて 1) プレゼンテーションの方法について 2) 研究発表会の運営について					
6・7.	発表会	研究発表会					
8.	講義	研究発表会を通してのまとめ 論文の修正					
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)						
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)						
評価方法	評価表に則り、論文・抄録の内容、発表、態度(論文完成までの取り組み、提出状況)などで総合的に評価						
備考	論文指導は、複数の講師で行います。						

授業科目	成人看護学概論		単位数	1	時間数	30	
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	2
科目目標	1. 成人期にある対象の特徴を理解する 2. 成人期にみられる健康障害を理解する 3. 成人期にある対象の看護に有効な概念について理解する						
授業計画	授業方法	授業内容					
1.	講義、DVD 視聴	成人の理解、働いて生活を営むこと					
2.	講義、グループワーク	成人をとりまく環境と生活からみた健康					
3.	講義、グループワーク	生活と健康をまもりはぐくむシステム					
4～6.	講義	成人への看護アプローチの基本					
7～13.	講義、グループワーク、 DVD 視聴	成人の健康レベルや状態に対応した看護 1) ヘルスプロモーションと看護 2) 健康をおびやかす要因と看護 3) 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 4) 慢性病とともに生きる人を支える看護 5) 障害がある人とリハビリテーション 6) 人生最期のときにおける医療の現状					
14.	講義	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援、 新たな治療法、先端医療と看護					
15.	まとめ、試験	まとめ、筆記試験					
教科書	系統別看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院)						
参考書	国民衛生の動向 (厚生統計出版会)						
評価方法	筆記試験 (80%)、グループワーク参加度 (10%)、課題レポート (10%) で総合評価						
備考							